

真理の翼【80回生】

兵庫県立神戸高等学校 進路指導部

今年度も進路関係の通信として、80回生2年生には「真理の翼」を発行します。皆さんが翼を広げ羽ばたき、将来、日本や世界で活躍する神高生の姿を想像し応援する気持ちを込めています。保護者の方を対象とした案内や連絡なども掲載する予定です。なお神戸高校 Web ページの「進路資料室」にもこのプリントの PDF ファイルを置いていきます。

2年生対象の模試について (予定)

全員受験でない模試については、配布する場合がありますが、基本的には進路資料室前にある資料を各自で見、希望者が自分で申し込み、公開会場で受験することになります。あくまで授業が第一ですので、無理をせず、各自の予定とよく照らし合わせて検討してください。

<全員受験> 神戸高校で実施

10月31日	土	ベネッセ総合学力テスト・11月(記述)
1月29・30日	金土	全統共通テスト高2模試

<希望者のみ受験>

日程	駿台模試(場所は三宮付近)	全統模試(場所は三宮付近)	代々木ゼミナール(場所)
5月17日	日	第1回 全統高2模試(記述式)	
6月7日	日	第1回 高2駿台全国模試	
8月9日	日		第1回全国高2模試(マーク式) @神戸大学 深江キャンパス
8月16日	日	第2回 全統高2模試(記述式)	
9月20日	日		第1回全国高2模試(マーク式) @代々木ゼミナール大阪南校
10月4日	日	第2回 高2駿台全国模試	
10月25日	日	第3回 全統高2模試(記述式)	
2月7日	日	第3回 高2駿台全国模試	
2月16日	火	全統記述高2模試(記述式)	

※上記以外に、年間6回(5月、7月、9月、12月、1月、3月)実施されるオンライン基礎学力テスト「駿台 atama+学力判定テスト」があります(年間3,200円、各回1,500円)。

オープンキャンパス情報

ぜひ、オープンキャンパスに参加しましょう。大学の雰囲気を実際に体感することで刺激を受ければ、進路実現に対するモチベーションが上がり、学習効果もアップするはず。各大学のホームページ等を見て、開催予定や開催方式をよく確認した上で、各自で申し込んでください。以下は4大学(東京・京都・大阪・神戸)の案内です。

東京大学

8月3日(月)・4日(火)にオンライン開催。実施要項はHPに掲載されます。

京都大学

来場型で実施。定員上限がありますが、主な企画は

8月6日(木): 総合人間学部、文学部、医学部、薬学部、農学部

8月7日(金): 教育学部、法学部、経済学部、理学部、工学部

の2日間の予定です。申し込み方法・内容詳細は6月上旬開設予定の特設サイトに掲載されます。

大阪大学

キャンパス来場型とオンライン型を併用して開催。予約が必要なプログラムもあります。詳細は概要HPに更新されていきます。

・5月2日(土): 薬学部 ・6月13日(土): 人間科学部 ・6月下旬: 外国語学部 ・8月: 全学部

神戸大学

主に対面での開催。詳細はHP上で随時更新され、現在、参加申し込み・受付期間は未定です。(昨年は8月6~8日でした。)

4大学の他にも、自分自身の興味のある大学の Web ページをこまめにチェックして、参加申し込みが遅れないようにしましょう!

<保護者の方々にも読んでいただきますよう>

大学入学共通テストについて

2026 年 1 月 17 日(土)、18 日(日)に大学入学共通テストが行われました。共通テストの作成方針には、「**高等学校の段階において身に付けた基礎的な力を問う**」とありますが、ただ知識を丸暗記するだけでは太刀打ちできません。前出の方針には、「**深い理解を伴った知識の質を問う問題や、知識や技能を活用し思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題**」とあり、日常生活においてさまざまな現象に興味・関心を持ち、複数の教科にまたがって受け身ではなく自ら疑問を持って取り組み、探究活動を通して資料やデータを用いて考察・表現することが大切です。以下に文系科目の出題傾向や取り組みの要点を掲載します。理系科目の特徴は第 2 号でお知らせします。

【歴史総合・世界史探究】

25%が「歴史総合」の範囲で残りが「世界史探究」。「歴史総合」分野は、日本史に絡む問題が多く問われた。「世界史探究」分野は大問が全てテーマ史(法の在り方、歴史を伝える、「帝国」、税)で、どこかの国のどこかの時代というものではない。出題形式については資料読解が多く、解答に時間を要する。読解量は昨年度より大幅に増加している。

【歴史総合・日本史探究】

25%が「歴史総合」の範囲で残りが「日本史探究」。「歴史総合」範囲では昨年度同様、日本史の知識だけでは対応できない問題が複数出題されたが、中学歴史で学習する範囲で対処できるものもあり、全体的に情報の分析・処理を求めていると考えられる問題が多かった。「日本史探究」では、今までになかった「連動型問題」が初めて出題された。時代については、縄文時代・弥生時代を対象とした原始が出題されたことと、戦後については 1990 年代までが対象とされていることが特徴である。資料や会話文などから必要な情報を正確に読み取り、習得した知識と組み合わせながら総合的に判断する問題が多かった。また分野に関して、政治史の割合が大幅に増加する一方、対外関係史の割合が昨年度に比べて減少した。

【地理総合・地理探究】

地誌の問題は、日本地誌の青森県が簡単であったこともあり、乾燥地域、河川という切り口は新しいが、おおむね考えやすい問題であった。地理の問題は教科書の太字単語を覚えることや統計のデータを覚えることはあまり重要ではなく、およそ 50 カ国の国名、位置、気候、人口、豊かさ、宗教民族を言葉だけでなく地図上で理解すること、その知識を活用することが重要である。

【公共・倫理・政経】

「倫理」と「政経」は、「公共」範囲の問題(25%)とセットになっており、両者で同じ問題が出題された。「公共」範囲の問題は、読解力・思考力・判断力を問う傾向は昨年と変わらず、知識の正確さも求められている。しかし難易度としてはさほど難しくなく、図表の読み取りも単純だったためかなり易しい。

「倫理」は、全体を見渡すとそこまで難しい問題はなく、昨年度より平易であった。知識問題が典型的なものが多く、東洋・日本の儒学思想、仏教思想について細かい知識を問う問題がほぼなかった。日本思想はほぼ読み取りが中心であり知識問題も少ない。読解問題も丁寧に読み取ればそこまで難しくなかった。

「政経」は、解答に必要な知識事項が、概ね教科書の範囲内で対応できるものとなっている。昨年にはなかった連動型問題が出題されたが、論理的に判断すれば解答は容易である。また、これまでと同様、図表データを用いた設問が複数出題されたが、基礎的な知識と論理的な判断力があれば難しくはなかった。

【英語】

昨年度と変わらず、全部で大問 8 問、マーク数 4 4 の構成であった。内容についても昨年度と同様、複数の物に関する記述、複数の意見や資料を読んで共通する事項を見つけたり、要約したりする問題である。共通テストの英文の難易度は国公立大学の 2 次試験や、私立大学の一般入試などと比較すると易しいが、文章量が多いため、早く正確に読み、正解にたどり着くことが求められる。どのような形式の問題にしても、たしかな文法・語法の知識と豊富な語彙があり、障壁なく文字が音に変わり、英語を日本語にせずとも概念的に理解できるようになれば、確かな速読力と精読力になることは間違いない。

【英語リスニング】

昨年度と比較して、マーク数は昨年の本試験と同じであった。読み上げられた英文の数は約 1,600 語、流れる音声の速さ(平均約 140 語/分)と昨年の本試験とほぼ同じであった。また、質問・選択肢の総語数は約 500 語と昨年より約 30 語増えた。出題方式は大問 4 で変化が見られた。

【国語】

「評論」については、本文が昨年度よりも 500 字程度増加しているが、本文以外の引用はなかった。「小説」は、昨年、一昨年に引き続き現代小説からの出題となった。分量や出題の方向性はおおむね昨年と同じだが、同じ作品の別の箇所を引用した【ノート】をもとに、生徒が対話する形式の設問が新たに出題された。昨年から導入された新傾向の「実用的な文章」については、「自分の好きな本を一冊選び、その本にどのような工夫が見られるかについて考えるという課題」に関する内容であった。「古文」については『うつほ物語』を出典としており、語句の解釈、語句と内容に関する説明、内容合致、本文と引用文に関する内容合致が問われた。「漢文」は日本漢文からの出題で、出題の内容はほぼ例年通りであった。

〈保護者の方々にも読んでいただきますよう〉